

## 聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「**真心**から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→**2**ダイナミックな多角的、立体的構造：背後に神意〔偶然はない〕

全聖書の構成の焦点は、人類の救い主イエス・キリスト

聖書のすべての記述、些細<sup>ささい</sup>で無関係と思われるようなすべてが、キリストとの関連で大きな意義がある

→**6**究極的に立証される神のすべての言葉

キリストご自身が神のご計画の「しかり」、アーメン

→**8**ひな型、予型：預言的に前もって示される、未来のある出来事、本物の写し、影

### 使徒パウロの宣教

### その30

『ローマ人への手紙』5-6章

## 5章

### 1-11節

#### 「信仰義認」のまとめ

☆罪人は信仰によって義と認められ、キリストによって神との平和が確立された

☆キリストによって、神と罪人の和解が達成され、両者の間の隔ての壁が取り除かれ、  
信じる者はだれでも、神との平和の関係に入った

☆魂がこの真理「神との平和」を確信した個々人は、「神の栄光の望み」、一キリストーに  
導かれ、この世に、また、身の回りに何が起ころうと、揺るがされることがなくなる

：1「…神との平和を持っています」（下線付加）：

＊「顔と顔を合わせて」、親密な関係に言及

#### 三通りの平和

1. この世の平和

2. 神との平和

☆キリストが神と私たちのために確立してくださった「神との平和」

3. 神の平安

→ピリピ人4：7「人のすべての考えにまさる神の平安」

☆キリストにすべてを委ねることによって経験的に知ることのできる「神の平安」

### 3-4節

：3「…患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し…」：

＊困難な状態がもたらす苦悩の意

＊「患難が忍耐…品性…希望を生み出すこと」を知って…患難を喜ぶ

#### 成熟の過程

☆成熟の過程で、苦悩で始まる連鎖反応の最後の産物が「希望」であることを知る

☆「忍耐」、一辛抱の意、困難にもかかわらず持続している状態—

☆「練られた品性」、一深く刻みつけられた性質—

☆「希望」、一現在を越えて未来に確信を持つこと—

☆神は困難を用いて、人を「練られた品性」へと成長させられる

## 聖書

：5「…聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです」（下線付加）：

- \*用いられているギリシャ語は、神の愛を私たちが理解する能力、一聖霊の働き— に言及
- \*優先が何であるかの見極めに迫られる揺さぶりのとき、聖霊が信徒を導かれる

### 6－11節

☆人知では測り知れない形で働かれる神、キリストが十字架上で達成された大いなるわざ

☆『ローマ人への手紙』は「なおさらのことです」という表現を五回使用

①9節、義と認められた私たちは罪に対する神の怒りから永久に救われている

②10節、キリストの死者からの「甦りの生命」こそ、私たちの救いの保障

：10「もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられた…」（下線付加）：

- \*宗教は、自らを神に和解させようとする試み、努力、人の生み出した手段

**罪人を神に和解させてくださった御子の働き**

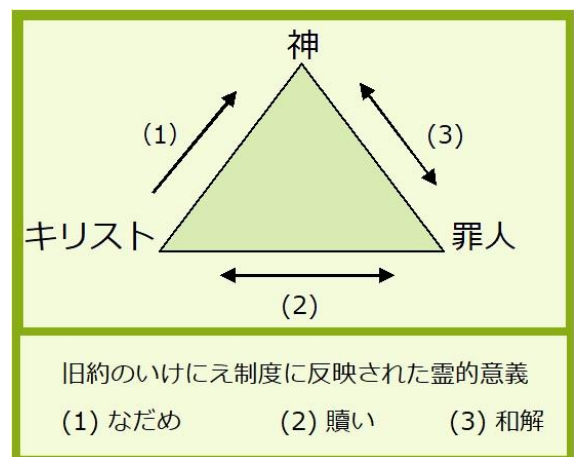
☆贖い、なだめ、和解は完全に神の働き、

キリストの死によって達成された

「敵」：

- \*キリストの贖いの対象を四つの言葉で表現

1. 6節 救いようのない者（弱い者）
2. 6節 不敬虔な者
3. 8節 罪人
4. 10節 敵



### 12－17節

**聖め、聖化**

☆神はただ「罪人を義と宣言する」だけでなく、  
「罪人を義にする」救いのご計画も持っておられる

### アダムとキリスト

☆神の御姿に似せて、神の属性を譲り受けて造られたはずの人は、

罪によって最初の創造時の神の似姿、属性を失い、墮落した者、罪ある者となった

→創世記5：3

☆神の側から何らかのご介入がないかぎり、

死はアダムの子孫、一全人類—の最終地点となった

☆神はキリストを「最後のアダム」としてこの世に送られた

☆罪と死の支配下にあった「アダムの子」—全人類—、キリストの福音を信じることにより、  
恵みと義の賜物に満ち溢れる「神の子」へと解放された

信仰義認 → 新生の人生 → 神の家族の一員

→ 甦りのキリスト（最後のアダム）を頭とする新しい生命の歩み（新しい創造）

\*最初のアダムを頭とする古い創造からの脱出！

### 人が罪人である理由

1. 罪の行為をする
2. 生まれつき罪人なので、罪を犯す
3. 神は、全人類を罪の下に置かれた
4. 人類はすべて、罪を課された

☆全人類の父祖アダムの罪の行為は全人類を代表するものとなった

## 聖書

：14「ところが死は、アダムからモーセまでの間も、アダムの違反と同じようには罪を…」：

★「来たるべき方」は最後のアダム、「イエス・キリスト」

★アダムからモーセまで律法がなかったときも、人々は負わされたアダムの罪のために死んだ

★人類の父祖アダムが罪を犯して以降、すべての人は一人の罪の結末に苦しむことになった

### 最後のアダムとの比較

☆アダムはキリストの「ひな型」

☆キリストは、新しい人類のかしら

：16「また、賜物には、罪を犯したひとりによる場合と違った点があります。さばきの…」：

### 裁きと恩寵の大きな違い

☆裁きは一つの違反でも、すべてを死の支配下に置いた

☆神の恵みは正反対に、多くの違反を義と認め、生命の支配下に置いた

：17「もしひとりの違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば…」：

★一方で、人は無慈悲な支配者の下で死にゆく犠牲者

★他方で、人は生命の御国の支配者になることが約束された

### 12－19節

☆最初のアダムは全人類を死に導いたが、全く同様に、

最後のアダム「キリスト」は、信じるすべての者を生命に導くことを繰り返し強調

### 18－21節

☆アダムが罪を犯した後、全人類に罪の結末が継承されることになった

☆最後のアダム「キリスト」は信じるすべての人に無償の賜物、永遠の生命を約束

★信徒はただ義と宣言されるだけでなく、聖めの過程を経て、栄光に帰される

### 神はなぜ律法を導入されたのか

☆人が自分の罪の性質を正当化しようとするすべての試み、能力を取り除くため

☆人は、自力本願に絶望するまでは、神の恵みを理解できない

：21「それは、罪が死によって支配したように、恵みが、私たちの主イエス・キリスト…」：

★アダムのゆえに罪が死を支配、

しかし、キリストのゆえに恩寵が支配、永遠の生命がもたらされた

## 6章

### 救いの時制

☆「私は救われた、救われている、救われるであろう」

☆信仰義認で人は「罪の刑罰」から分かたれ、聖化で「罪の力」から分かたれ、

栄光化で「罪の存在」から分かたれる

★信仰義認は罪人を「義」と宣言し、聖化は罪人を「義」にする

★信仰義認は罪の咎と刑罰を取り除き、聖化は罪の成長と力を取り除く

：2「絶対にそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが…」（下線付加）：

★「神は禁じられる」の意

★事実は、キリスト者は「救い」の時点で罪に死んだ

### 「死」の敗北

☆キリストを受け入れるとき、罪人の基本的な性質に何かが起こる

☆それでも人は罪を犯すが、そこに安住することはできない

☆「死、罪が支配することはもはやない」と知りなさい、信じなさい、認めなさい…

→3、6、8、9、11、12、13節

## 聖書

### 洗礼

☆βαπτίζω バプティゾー、意味の領域が広い

☆聖書の沐浴や洗礼は、全身を水に浸す、水にさらす、水を降り注ぐ…のいずれも有効

#### さまざまな洗礼

☆コリント人第一10：1-2「**モーセにつくバプテスマ**」

☆民はモーセに従ったので、モーセの信仰と同一にされ、モーセの信仰が民に帰された

☆使徒の働き18：24-25 洗礼者ヨハネの洗礼

☆人々を悔い改めに結びつけたが、キリストへの信仰には結びつかなかった

☆新約聖書は一貫して、洗礼の儀式による「新生」を否定

☆水による洗礼は、すでに心の内に達成された霊的な働きを、公への証しとして公開するもの

☆「聖霊のバプテスマ」を「聖霊の満たし」と混同してはならない

### 信徒の聖めの土台はキリストとの合体

(1) 5-11節 新生に関する正しい認識

☆5節は条件節ではなく、「～ので、キリストと同じようになる」の構文

☆「キリストの死と同じ」ように、「キリストの甦りと同じ」

☆6節の「**罪のからだが減びて**」(下線付加)は無力の状態に置かれること

☆古い自分の性質はまだ存続している、しかし、古い自分はもはや何の役割も担わない

：7「**死んでしまった者は、罪から解放されているのです**」(下線付加)：

＊単数で、古い罪の性質、自我に言及

＊キリストとともに死ぬとは、もはや古い自分が自分を支配することはないということ

(2) 12-14節 この世、罪に迎合しないこと

☆12節は「もはや罪に支配を許してはならない」の意

☆神の言われたことは真理であると自ら言明し、それを実践しなさい

☆罪の支配は今、あなた自身の選択にかかっている

☆神の宣言を銘記し、この世や罪に迎合しない選択をする

→コリント人第二5：17、5：21

☆「**心の一新によって、自分を変えなさい**」(12：2)は、キリスト者の人生に適用すべき実践的指針

(3) 15-23節 服従

☆かつては「**罪の奴隷**」、しかし今は「**義の奴隷**」、一神への従順—

→マタイ6：24

☆富への過信、依存は罪への隷属、死に導かれる

☆罪の結果の死は神との永久の隔離、地獄に至る

☆信じない者はそこで、意識ある苦悶を永遠に味わう

☆対照的に、神の賜物は永遠の生命

：19「**あなたがたは生まれながらの人間(肉)のゆえ弱いので、人間的な言い方を…**」(NIV)：

＊パウロ、この世の日常生活から、肉の弱さを持った身体を「奴隷」の類似に用いたが、キリスト者には相応しくない比喩表現であることを釈明

：20「**…あなたがたは廉直であることに對し何の義務も感じませんでした**」

(新エルサレムバイブル)：

### 罪か義かの選択

☆①「罪」を選ぶか②「義」を選ぶかの結果、

行き着くところは①「恥と死」か②「聖めと永久の生命」

### まとめと展望

1. 5章 二人のかしら、アダムとキリスト

2. 6章 二人の主人、人格化された「罪」とキリストに顕された「神」

3. 7章 二人の夫、律法と甦られたキリスト